

旧西川利右衛門家住宅

この住宅は、17 世紀、主に蚊帳や畳表を江戸、京都、大坂で販売して財を成した豪商の家である。歴代の当主は西川利右衛門を名乗り、1706 年に新町通りの西側に家を建てたのは 3 代目の西川利右衛門である。三代目利右衛門の弟である庄六が分家し、利右衛門邸の向かいに住むようになり、1785 年に邸宅を建てた。1930 年、第 11 代西川利右衛門が後継者なく死去し、本家は終焉を迎えた。しかし西川庄六家は存続し、西川利右衛門邸は近江八幡市に寄贈した。1983 年に重要文化財に指定され、1985 年から 1988 年にかけて大改修が行われ、江戸時代の近江商人の家としての姿が復元された。現在は博物館として一般に公開されている。